

分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：8名（正会員6名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学） 柴田 保子（東京家政大学）
鈴木 学（日本女子大学） 藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員
上條 庸子（女子栄養大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）
以上正 ML 会員
小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）
以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：60名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，過去2期の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法（NDC）」新訂10版の試案について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，「その分類、大丈夫ですか？」とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間で(1)研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2)主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3)研究成果の発表および総括の3つの期間に分けて活動する。

2013年度は第2期から第3期の活動を行う。

2. 1) 第2期 NDC10版試案の検討

第2期の活動として，前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂10版試案の概要」の検討を行った。

試案については，時系列で以下のように公開されている。また試案は『図書館雑誌』のページ構成上，各4ページという制約があるが，日本図書館協会分類委員会ホームページ（<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/187/Default.aspx>）上では，PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細なものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その7 8類「言語」の部 図書館雑誌 106(7)，2012.7，p.488-491.
- ・ その8 4類「自然科学」の部 図書館雑誌 107(1)，2013.1，p.40-43.
- ・ その9 9類「文学」の部 図書館雑誌 107(3)，2013.3，p.178-181.
- ・ その10 6類「産業」の部 図書館雑誌 107(10)，2013.10，p.644-647.
- ・ その11 「情報学」の部 図書館雑誌 108(1)，2014.1 p.38-41. (※)

※ ただし、「情報学」の部は他の各類と異なり試案説明会での公表が先行し、続いて Web 版、雑誌掲載版の順に公開された。また、分科会では特例として公開前の試案を対象に検討を行った（後述）。

これら検討の結果を、NDC 全体に関わる課題と各類改訂試案、「解説」個々に対する課題とに整理し、2014 年 2 月 1 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見：4 類・6 類・8 類・9 類試案および情報学関連領域について」として日本図書館協会分類委員会に提出した。また、分類委員会より意見書への回答として、同 3 月 4 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見（回答）」を受理した。

今次の意見書で、10 版改訂をする分類委員会に対する意見書は 4 回目となるが、これまでの提言の多くが委員会で検討され、10 版の構成や内容に反映されるものがあるが、第 2 回試案説明会における分類委員長報告の内容から明らかになった。

2. 2）夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 2 期の活動に関連して NDC10 版改訂試案が既存の出版物の分類にどの程度の影響を及ぼすかを推測するために、2009・2011 年度とほぼ同様の手法を用いて NDL-OPAC 書誌をサンプルとした実証実験を行った。

2. 3）NDC10 版第 2 回試案説明会への出席

分類委員会は、11 月 12 日（火）に日本図書館協会第 2 回となる NDC10 版の試案説明会を開催した。これは 2009 年 11 月に開催されたものの続きであり、それ以降公表された試案の解説が中心であった。

分科会は同日午前中に日本図書館協会月例会を開催し、続いて午後説明会に出席した。この会には ML 会員・個人会員含め分科会全員参加をし、質疑応答や懇親会の席上で多くの意見を分類委員に提示した。

2. 3）会場記録および活動概要

2013 年 4 月 19 日（金） 文教大学（越谷）

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 8 類

5 月 10 日（金） 獨協大学

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 4 類

6 月 21 日（金） 日本女子大学（西生田）

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 9 類
- 2) 夏期研究合宿会場について

7 月 12 日（金） 東京家政大学（板橋）

- 1) NDC9 版改訂に関する記録文献の検討（「資料組織化研究」より）
- 2) 夏期研究合宿の内容について

9 月 4 日（水）～6 日（金）道の駅ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検証 4, 8, 9 類
- 2) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 6 類

9 月 20 日（金） 獨協大学

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 6 類
- 2) 研究報告大会について

10 月 18 日（金） 東京家政大学（板橋）

- 1) 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討 情報学

2013 年 11 月 12 日 (火) 日本図書館協会会館

- 1) 各分類試案の問題点整理
- 2) 日本十進分類法第 2 回試案説明会

12 月 6 日 (金) 日本女子大学 (目白)

- 1) 研究報告大会について
- 2) 試案説明会について

2014 年 2 月 21 日 (金) 女子栄養大学 (駒込)

- 1) 研究報告大会および報告論文について
- 2) 分類委員会への意見書について

3 月 7 日 (金) 喫茶室ルノアール神田南口駅前店マイ・スペース

- 1) 意見書への回答について
- 2) 総括

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2013 (第 23 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ (現・情報組織化研究グループ) により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2013 年度は横浜で開催され、分科会からは藤倉・川上・小林の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2014 年度は 9 月 5・6 日に横浜にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

今期は特に、6 類と情報学の試案について、分科会側の検討スケジュールの事情と、委員会側の刊行計画との兼ね合いから、公表前の試案を特例として提供を受けることができた。結果として、6 類試案は雑誌校正段階で、情報学試案は公表前に分科会が指摘した問題点のいくつかに対応したものが発表された。

(文責・藤倉恵一)